

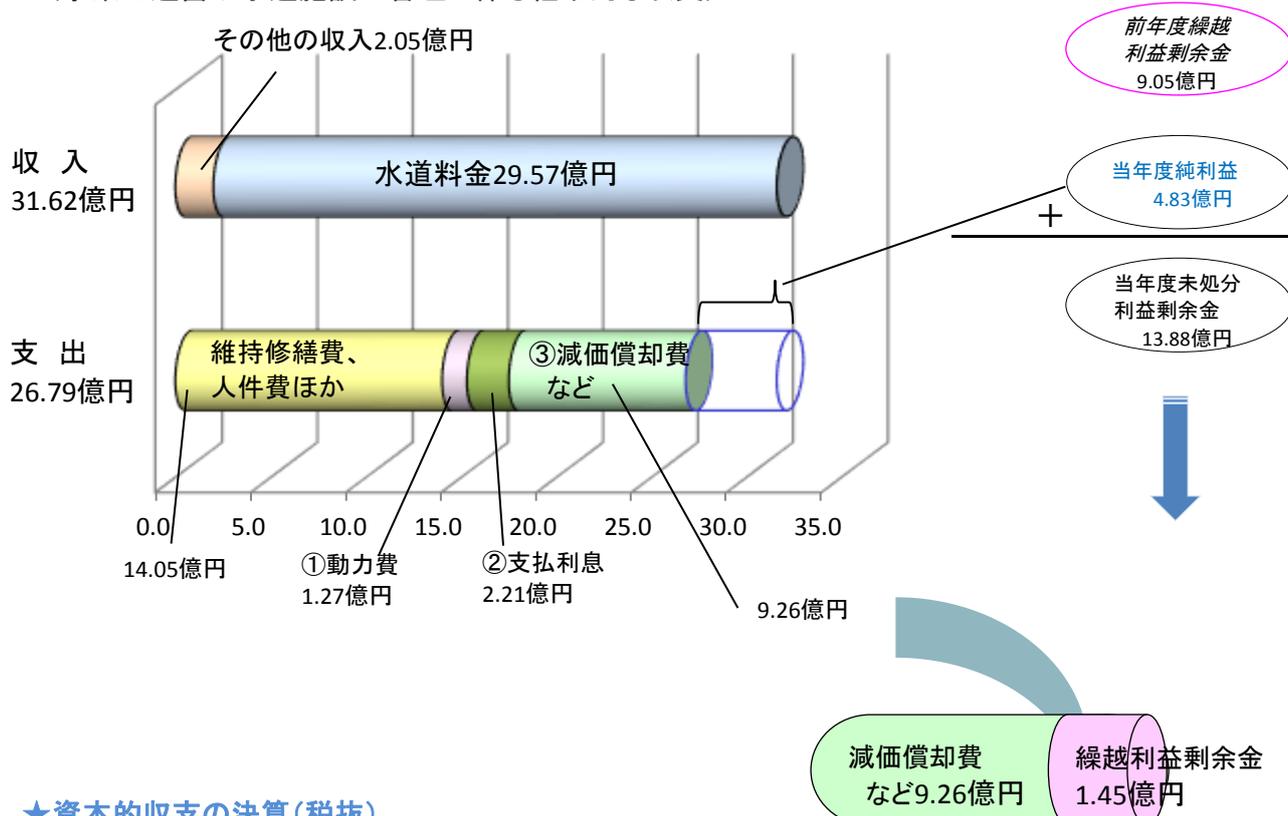
第17回米子市水道事業審議会 資料

- ・平成25年度 決算の概要について

平成26年10月10日(金)

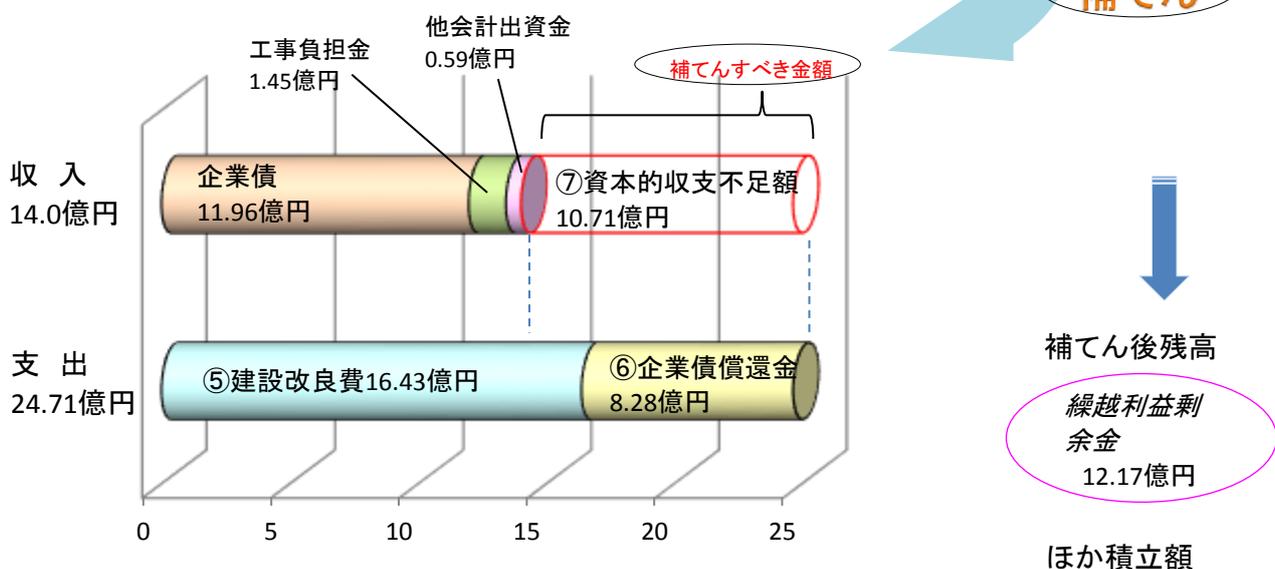
★収益的収支の決算(税抜)

(事業の運営や水道施設の管理に係る経常的な収支)



★資本的収支の決算(税抜)

(水道施設の新設や更新などに係る投資的な収支)



* 収入のうち翌年度にあてる繰越工事資金は除いています。

- ・①動力費 …水道水をお届けするために必要な電気料金。
- ・②支払利息 …企業債(借入金)の利息。
- ・③減価償却費 …施設の新設や更新に使ったお金を一度に費用とはせず、毎年、費用化するものです。
- ・④工事負担金 …下水道や土木工事などに伴い発生する他会計が負担すべきお金です。
- ・⑤建設改良費 …施設の建設費や更新に伴う改良工事費で投資的要素があるものです。
- ・⑥企業債償還金 …企業債(借入金)の元金の返済です。
- ・⑦資本的収支不足額 …減価償却費や繰越利益剰余金などの内部留保資金で補てんします。

1 業務の状況について

業務の実績の推移

(千円)

	平成23年度	平成24年度	平成25年度	前年度比	鳥取市 (H24)	松江市 (H24)
給水人口 (人)	188,006	187,387	187,404	17	160,748	166,446
給水戸数 (戸)	72,568	73,226	73,916	690	55,118	80,359
年間配水量 (m ³)	23,846,346	23,608,335	23,383,943	△ 224,392	20,733,612	20,898,340
年間給水量 (m ³)	21,731,865	21,635,380	21,516,729	△ 118,651	19,141,658	19,351,863
一日最大配水量 (m ³)	74,409	74,404	72,863	△ 1,541	67,707	53,019
有収率 (%)	91.1	91.6	92.0	0.4	92.3	92.6

* 有収率は、年間配水量のうち、料金の基礎となった水量の割合。(同格都市の割合は90.1%)

2 経営状況(収益的収支)について

①収益的収入の推移

(千円)

	平成23年度	平成24年度	平成25年度	前年度比	鳥取市 (H24)	松江市 (H24)
料 金 収 入	2,982,423	2,969,167	2,956,833	△ 12,334	2,672,030	3,744,133
そ の 他	245,412	205,571	205,281	△ 290	217,003	205,284
総 収 益	3,227,835	3,174,738	3,162,114	△ 12,624	2,889,033	3,949,417

②収益的支出の推移

(千円)

	平成23年度	平成24年度	平成25年度	前年度比	鳥取市 (H24)	松江市 (H24)
営 業 費 用	2,642,725	2,487,694	2,453,127	△ 34,567	2,633,662	3,516,611
営 業 外 費 用	267,555	243,893	223,606	△ 20,287	402,058	222,370
そ の 他	3,121	3,811	2,486	△ 1,325	6,428	0
総 費 用	2,913,401	2,735,398	2,679,219	△ 56,179	3,042,148	3,738,981

当年度純利益(①-②)

(千円)

	平成23年度	平成24年度	平成25年度	前年度比	鳥取市 (H24)	松江市 (H24)
純 利 益	314,434	439,340	482,895	43,555	△ 153,115	210,436

3 資本的収入及び支出

③資本的収入の推移(翌年度にあてる繰越工事資金は除く。)

(千円)

	平成23年度	平成24年度	平成25年度	前年度比	鳥取市 (H24)	松江市 (H24)
企業債	441,800	479,700	1,196,000	716,300	442,200	295,000
工事負担金その他	206,975	210,590	198,041	△ 12,549	357,037	276,377
計	648,775	690,290	1,394,041	703,751	799,237	571,377

④資本的支出の推移

(千円)

	平成23年度	平成24年度	平成25年度	前年度比	鳥取市 (H24)	松江市 (H24)
建設改良費	851,665	1,023,257	1,636,715	613,458	1,300,926	806,653
企業債償還金	974,640	961,270	828,177	△ 133,093	1,010,971	794,640
計	1,826,305	1,984,527	2,464,892	480,365	2,311,897	1,601,293

資本的収支不足額(④－③)

(千円)

	平成23年度	平成24年度	平成25年度	前年度比	鳥取市 (H24)	松江市 (H24)
資本的収支不足額	1,177,530	1,294,237	1,070,851	△ 223,386	1,512,661	1,029,917

4 利益剰余金の推移

(千円)

	平成23年度	平成24年度	平成25年度	前年度比	鳥取市 (H24)	松江市 (H24)
減債積立金	72,100	94,100	119,100	25,000	0	0
建設改良積立金	0	0	0	0	0	300,000
その他積立金	29,495	29,495	29,495	0	0	0
繰越利益剰余金	859,053	904,663	1,217,488	312,825	△ 222,173	975,200
計	960,648	1,028,258	1,366,083	337,825	△ 222,173	1,275,200

5 企業債残高の推移

(千円)

	平成23年度	平成24年度	平成25年度	前年度比	鳥取市 (H24)	松江市 (H24)
企業債残高	10,091,851	9,610,281	10,106,203	495,922	16,410,296	9,716,618

財務や経営に関する指標の推移と比較

区 分	算 式	23	24	25	* 同格都市 (H24)	鳥取市 (H24)	松江市 (H24)
1 総 収 益 対 総 費 用 比 率 (%)	$\frac{\text{総 収 益}}{\text{総 費 用}} \times 100$ <p>事業の収支状態を示す。この値は100%以上であることが望ましいです。</p>	110.8	116.1	118.0	108.5	95.0	105.6
2 営 業 収 益 対 営 業 費 用 比 率 (%)	$\frac{\text{営 業 収 益}}{\text{営 業 費 用}} \times 100$ <p>営業活動の収支状態を示す。比率は大きいほどよい。</p>	120.7	126.3	127.4	108.9	108.6	111.0
3 流 動 比 率 (%)	$\frac{\text{流 動 資 産}}{\text{流 動 負 債}} \times 100$ <p>短期債務に応ずることのできる流動資産が十分にあるか判断する指標。この値は100%以上で、より高いほうが支払い能力があります。</p>	494.0	314.2	462.8	590.5	846.0	1096.2
4 料 金 収 入 対 する 企 業 債 元 利 償 還 の 割 合 (%)	$\frac{\text{企 業 債 元 利 償 還 金}}{\text{料 金 収 入}} \times 100$ <p>企業債元金および利息の償還の給水収益に対する割合を示します。企業債残高の規模と経営への影響を分析するための指標です。この値は低いほうがよいです。</p>	41.5	40.5	35.5	29.0	52.8	19.0
5 供 給 単 価 (円/m ³)	$\frac{\text{給 水 収 益}}{\text{有 収 水 量}} \text{円}$ <p>1m³当たり、どれだけの収益を得ているかを示す。低額であるほうがサービスの観点から望ましいが、単純に金額だけで判断することは難しい。</p>	137.24	137.24	137.42	164.10	139.59	208.85
6 給 水 原 価 (円/m ³)	$\frac{\text{総費用-(受託+材料売却+特別損失)}}{\text{有 収 水 量}} \text{円}$ <p>1m³当たり、どれだけ費用がかかっているかを示す。安いほうが、事業者にとっても水道利用者にとっても望ましいが、給水原価の水準だけでは、経営の優劣を判断することは難しい。</p>	129.98	124.03	122.50	164.25	158.27	207.47
7 料 金 回 収 率 (%)	$\frac{\text{供 給 単 価}}{\text{給 水 原 価}} \times 100$ <p>供給単価の給水原価に対する割合を示します。水道事業に経営状況の健全性を示す指標の一つです。100%を下回っている場合、給水にかかる費用が料金収入以外の収入で賄われていることを示します。</p>	105.6	110.6	112.2	99.9	88.2	100.7

* 同格都市 … 給水人口15～30万人の事業体の平均的な値

・減価償却とは…

★費用配分の側面

水源地などの施設あるいは水道管などは、長年にわたって使用するもので、単年度に消耗してしまうものではありません。そこで、「使う年数に応じて少しずつ費用にすべき」と考えるのが合理的であり、企業会計の原則です。その分割された費用のことを減価償却費といい、損益計算(収益的収支)に計上します。

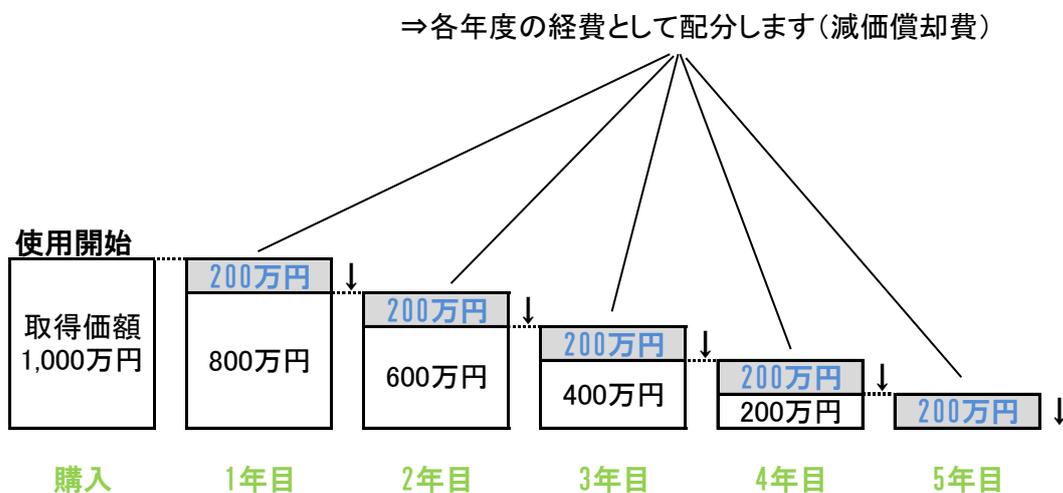
これが、減価償却における費用配分の側面であり、損益計算書に表れます。

★資産評価の側面

水源地などの施設あるいは水道管などは、固定資産といいます。取得した年度末に資産(財産)として貸借対照表の左側に評価額を表示します。

しかしこの資産も、毎年、価値が下がっていくと考えるのが通常です。そこで、単純に、費用配分で費用に計上した分だけ、価値が下がっていくと考えるのが合理的であり、これを減価償却における資産評価の側面であり、貸借対照表の減価償却の累計額として記載する資産(財産)の目減り分となります。

◆図解



取得価額 … 固定資産の購入額(ここでは1,000万円としています。)

耐用年数 … 使用可能な期間(ここでは5年としています。)

減価償却費 … $1,000万円 \div 5年 = 200万円$
(資産の価値の減少)